



1. 会 期

2025年3月15日（土）～16日（日）

*プレプログラムとして若手研究者によるワークショップを3月14日（金）15時～17時に開催

2. 会場・開催形式

武庫川女子大学 中央キャンパス（兵庫県西宮市池開町）・対面開催

3. 大会テーマと主たる内容

(1) テーマ「ソーシャル・イノベーションとしての住民主導型スポーツ推進システムの再興に向けて」

体育・スポーツ経営学は、文化としてのスポーツが全ての人々に開かれた権利として保障されるようその推進システムを模索してきました。文化としてのスポーツの発展はスポーツと人々の関わりの量的拡大とともに質的な高まりも意味しますが、その根底には豊かな運動生活の実現を目指すとともに、生活者を重視した体育・スポーツ経営の具体化という実践的姿勢がありました。すなわち人々を受動的なスポーツサービスの消費者としてではなく、自主的にスポーツに関わり、文化としてのスポーツの創造・普及の担い手として運動者や生活者を位置づけてゆく思想でした。学校体育をめぐっては、児童生徒を自らスポーツの楽しみを創り出していく主体として育てたい、そのために運動部活動や体育的行事の自主的運営が目指されました。地域スポーツをめぐっても、住民による主体的なスポーツ活動の展開は、地域のスポーツ経営が一貫して目指してきた姿でした。

しかし、近年の我が国における体育・スポーツの状況に鑑みると、生活者重視あるいは運動者主導の理念や思想の影は感じられません。2020東京オリンピックを契機としたスポーツの成長産業化は、スポーツのビジネス化を促すとともに、受動的なスポーツ消費者を増大させているように見えますし、スポーツの産業化と運動者主導のスポーツ推進システムとの接点に関する議論さえ始まっていません。

一方、30年間にわたる総合型地域スポーツクラブ育成は、そのクラブ数は増えたものの中学校区程度の生活圏での育成は頓挫し、クラブの質的充実に舵を切りました。元来、総合型地域スポーツクラブは、住民の自治的・自律的な活動を基調とするスポーツ推進システムを全国各地域に整備することにより、従来の行政主導型スポーツ推進システムの限界を抜本的に克服するための政策あるいは社会運動でした。しかし、依然として国民のクラブ加入率や認知度は低水準にあり、解散や活動休止となるクラブも多くなっています。住民主導のスポーツ推進システムはなぜ育たないのか、という問いに対する答えを見出すことはできるのでしょうか。

さらに、部活動の地域移行が動き始めました。令和7（2025）年度までを改革推進期間としています。国は可能な限り早期にと新しいスポーツ推進システムを構築するよう求めています。部活動の地域移行に共通解を求めることは困難でしょうが、日本のスポーツシステムの大きな転換点となることは間違いありません。地域移行をめぐっても休日の地域クラブ活動という提案がなされており、地域の多様な主体が実施主体となることが期待されています。総合型地域スポーツクラブの経験を振り返ると、部活動改革を支える新しい住民主導のスポーツ推進システムの可能性を議論する必要性がありそうです。

以上のように昨今のスポーツの動向に鑑みると、スポーツの環境や政策が変容する中で、体育・スポ

一つ経営学が目指してきた生活者ないし運動者主導のスポーツ推進システムの可能性や課題について確認しなければならない時期にあると考えます。“体育・スポーツ経営学は生活者・運動者主導のスポーツ推進システムを育てられたか”という問いです。

そこで第48回大会では、ソーシャル・イノベーション（社会変革）を切り口として、以上の問題意識に迫ってみたいと思います。ソーシャル・イノベーションを具現化しそれを支える組織やシステムの方角性は、ボランティアや互助をベースにするのか、ビジネス的な志向を強調するのか、様々にありえます。ソーシャル・イノベーション研究は、こうした多様な価値観や文化のはざままで社会変革のあり様について広範な議論を蓄積してきました。総合型地域スポーツクラブの育成も、ソーシャル・イノベーションとしての性格を色濃く有しています。本大会では、主に総合型地域スポーツクラブをソーシャル・イノベーションの事例としてとりあげますが、住民主導のクラブの育成をめぐる課題や可能性に関する議論は、住民主導型スポーツ推進システムの再興に向けた必須の問いであると考えます。

(2) 基調講演

<テーマ> ソーシャル・イノベーション研究の現在とスポーツ経営

<講師> 高橋 勅徳 氏（東京都立大学）

ソーシャル・イノベーションとは、新規事業の構築を通じて社会的課題の解決を図る社会企業家の実践によって生み出されます。先行研究では、米国における新自由主義的なソーシャル・ビジネスの文脈のみならず、欧州の福祉国家的あるいは社会民主主義的なNPO・NGO論の文脈からも進められ、我が国では米国・欧米双方の研究動向を受け入れつつ、独自の展開が進められてきた研究領域です。

ソーシャル・イノベーション研究では、政治やコミュニティへのアクセスが喪失し、自助努力や他者からの支援によって社会問題の解決が難しい社会的排除を社会的課題として注目し、事業構築を通じた価値創造をつうじてその解決が図られる現象に注目してきました。例えば、ソーシャル・イノベーションの事例として有名なグラミン銀行は、バングラデシュにおける貧困の原因を、個人向けの融資制度が存在しないため、不作の際に生活に困窮した農民が闇金融業者から借金をし、返済ができず土地を差し押さられることによって生じている構造的不利益であるとみなします。そこで、低金利の融資事業としてグラミン銀行を創出することで、農村部における貧困問題の解決を実現しました。

他方で近年の研究は、このグラミン銀行の取り組みそのものが、グラミン銀行からの融資を元手に融資を受けられない人々に融資する金融業が流行し、伝統的な村内の相互扶助関係が解体されたことを問題点として指摘します。それ故に、ソーシャル・イノベーション研究には、社会企業家の行為を倫理的実践として捉え直していく必要性が指摘されています。

住民主導型スポーツの推進システムは、スポーツの普及と地域再生を一つの事業として解決を図っていく、ソーシャル・イノベーション現象の一つとして捉え直すことができます。地域住民や現象を捉える際には、一方で地域住民や行政組織、スポーツ団体、民間企業など多様な主体がこの事業に参加する利害に注目し、他方で多様な主体の関係から住民がいかにイニシアティブを獲得していくのか、行政や体育協会など権限や資源を有する主体が住民をいかにエンパワーメントしていくのかという、理論的視座が必要となります。そして、この事業が生み出す地域社会への影響を、生み出された新たな価値（価値創出）と課題（社会的排除）から捉え直す必要があります。

そこで基調講演では、ソーシャル・イノベーション研究の動向を詳しく説明していただくとともに、住民主導のスポーツ推進システムへの援用可能性などについてご示唆をいただきます。

(3) シンポジウム

<テーマ> 住民主導型スポーツ推進システムの育成：課題と今後の展望

<シンポジスト>

- | | |
|-----------------------------|-----------------|
| ① 総合型地域スポーツクラブをめぐる政策展開と地域主体 | 関根 正敏 氏 (中央大学) |
| ② 総合型地域スポーツクラブの休・廃止実態の背景と課題 | 行實 鉄平 氏 (久留米大学) |
| ③ NPO の商業主義化と住民主導との相克 | 桜井 政成 氏 (立命館大学) |

<コーディネーター>

松橋 崇史 氏 (拓殖大学) 横山 剛士 氏 (金沢大学)

生活者・運動者主導のスポーツ推進を目指してきた体育・スポーツ経営(学)は、如何に評価されるでしょうか。地域スポーツ経営に関わる組織はスポーツ少年団やスポーツ協会からスポーツ行政に関わる組織まで幅広く存在しますが、総合型地域スポーツクラブは住民主導型スポーツ推進システムの象徴的な姿としてその育成が支援されてきました。しかし総合型地域スポーツクラブの中には、スポーツ経営能力を維持することが困難になりつつある事例が多々見られるようになってきました。総合型地域スポーツクラブが住民主導の協働システムとして自立することは困難なのでしょうか。その背景や課題に関する議論が実践的にも理論的にも求められていますし、基調講演のソーシャル・イノベーションの解説は大きな示唆を与えてくれると思います。

本シンポジウムでは、まず、関根正敏氏からは、総合型地域スポーツクラブの育成を目指す政策を住民たちがいかに受け入れていったのか、そうした実証研究の議論を中心としながら、住民主導型スポーツ推進システムとしてのクラブ育成の現況について総括していただきます。続いて、行實鉄平氏に、休・廃止した総合型地域スポーツクラブの実情や休・廃止の事例から見た、住民主導型スポーツ推進システムの成立と維持問題について報告してもらいます。総合型地域スポーツクラブの休・廃止という現象は住民主導型スポーツ推進システムの限界を意味するのでしょうか。最後に、桜井政成氏からNPOの商業主義化に関する実証研究の成果をご紹介します。商業主義化という論点は、総合型地域スポーツクラブがビジネスライクになることと住民主導との関係性やボランティアベースでの事業の継続性問題といった、総合型地域スポーツクラブの組織特性と方向性を検討する上で重要な議論になることが期待されます。

混迷する総合型地域スポーツクラブの現実の状況に目を向けながら、住民主導のスポーツ推進に向けた体育・スポーツ経営学研究の今後の課題を再考するとともに、ソーシャル・イノベーションを提案してきた研究者の関わりも確認していきたいと思います。

(4) 若手研究者によるワークショップ [プレプログラム]

<テーマ> 最新の研究方法論：クリティカル・マネジメント研究 (CMS)

<講師> 米田 晃 氏 (神戸大学大学院経営学研究科 特命助教)

イギリスの経営学者であるデニス・トゥーリッシュ氏が著した『経営学の危機』は、翻訳されるや否や、本邦における経営学関連の学問分野へ現在進行形で多大な影響を及ぼしています。しかし、デニス・トゥーリッシュ氏の依拠するクリティカル・マネジメント研究 (Critical Management Studies : CMS)

については、国内において十分にその学問的背景や知見が受容されているとは言い難いのが現状であると思います。そこで本ワークショップでは、CMS を専門とし、ご自身も博士後期課程に在籍する若手研究者である米田晃氏から CMS をご紹介いただきます。

4. 大会日程

<プレプログラム>		
日程	時間	内容
3月14日(金)	15:00~17:00	若手研究者によるワークショップ
<本プログラム>		
日程	時間	内容
3月15日(土)	(11:40~12:40)	*理事会
	12:50~13:00	開会あいさつ
	13:00~14:30	基調講演
	14:30~14:45	休憩
	14:45~16:45	シンポジウム
	16:45~17:00	休憩
	17:00~17:45	総会
	18:00~20:00	懇親会
3月16日(日)	9:00~9:45	学生研究発表(学部生)
	9:45~10:00	休憩
	10:00~11:00	一般発表
	11:00~11:10	休憩
	11:10~12:00	ポスター発表(50分)
	12:00~13:00	昼休憩・優秀研究発表審査会
	13:00~14:00	一般発表
	14:00~14:15	休憩
	14:15~15:15	一般発表
	15:15~15:30	休憩
	15:30~15:40	閉会式(あいさつ・優秀発表表彰)

5. 大会参加手続き

(1) 参加申込み方法：WEB 参加申込み

参加申込みフォーム (<https://forms.gle/tASEJoo6GLLtbXEh8>) からアクセスしてください。参加申し込みにあたっては 参加区分、研究発表(口頭/ポスター)、若手研究者によるワークショップの参加有無などをそれぞれ選択してください。

大会2日目(3/16)は、昼食のためにお弁当(1,000円、公江記念館食堂 ENSEMBLE 提供)を提供します。お弁当をご希望の方は、申込みフォームよりお申し出ください。なお、お弁当代(1食1,000円)は、大会当日に現金でお支払いください。休日の大学付近には飲食店が少ないため是非ご利用ください。

(2) 参加申込み締切日

2025年1月31日(金)

(3) 参加費

項目	会員種別	参加費	項目	参加費
大会参加費	正会員	5,000円	懇親会費	4,000円
	学生会員	2,000円		2,000円
	臨時一般会員	6,000円		4,000円
	臨時学生会員	3,000円		2,000円

(4) 振込先および振込締切日

<振込先>

銀行名： 三井住友銀行(0009) 西宮支店(370)

口座番号： 普通 8992912

口座名義： ニホンタイイクスポーツケイエイガクカイ ダイヨンジユウハチカイタイカイ ジッコウイインチョウ ヤナギサワカズオ
日本体育・スポーツ経営学会 第48回大会 実行委員長 柳沢和雄

振込締切日：2025年1月31日(金)

6. 研究発表について

(1) 発表資格・内容など

2024年度会費・大会参加費納入済の正会員・学生会員、大会参加費を納入済みの臨時会員が発表できます。

学生研究発表(学部生)

発表内容は、体育・スポーツ経営に関する研究であり、完結している研究に限ります。なお、筆頭演者の学部生につきましては、必ず指導教員による指導を受けた者として扱います(共同研究者として指導教員を含むようにしてください)。発表時間は12分、質疑応答は3分、計15分となります。

一般研究発表

発表内容は、体育・スポーツ経営に関する研究であり、完結している研究に限ります。なお、筆頭演者としての発表につきましては、一人1演題に限ります。発表時間は15分、質疑応答が5分、計20分となります。

なお、「学会大会優秀発表賞」(詳細別紙)に応募する学生会員は、かならず参加申込みフォームにおいてエントリーを表明するようにしてください。

ポスター発表

発表内容は、体育・スポーツ経営に関する研究であり、完結している研究に限ります。なお、筆頭演者としての発表につきましては、一人1演題に限ります。発表者は、大会開催期間中、指定された会場

にてポスターの掲示ができます(会場については別途お知らせいたします)。また、発表者は指定された時間帯に各自のポスターの前に立ち、参加者と質疑応答をおこなってもらいます(責任着座制)。

(2) 発表申込み

参加申込みフォームから発表の申込みをしていただき、学生研究発表および一般研究発表については期日までに抄録(2ページ)を提出してください。また、ポスター発表の場合は申込時に題目をお知らせください。

(3) 抄録の提出

抄録は、「抄録発表原稿の作成要領」に従って作成し、**2025年3月1日(土)**までに大会事務局へ電子メールに添付して提出してください。

7. 大会事務局および実行委員会

<大会事務局>

〒663-8558 兵庫県西宮市池開町6-46 武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 宇野博武
TEL: 0798-45-9770 E-mail: keiei48th@gmail.com

<学会大会実行委員会>

実行委員長 柳沢 和雄(武庫川女子大学)
委員 天野 和彦(東北学院大学)
長谷川健司(太成学院大学)
常浦 光希(広島大学大学院)
奥田 直希(高松大学)
宇野 博武(武庫川女子大学)
工藤 康宏(武庫川女子大学)

8. 主催および共催

主催: 日本体育・スポーツ経営学会
共催: 武庫川女子大学